



楽々亭通信

第26号
発行: NPO法人没イチの会・京都
令和4年11月1日号

十月の楽々亭を

開催いたしました



本願寺派布教使

安堂芳雅

■「お育て」の中で

こんにちは、安堂です
毎月、皆さんと「仏教に人生を学ぶ」時間をいただいています。

様々にお話をうかがうと、皆さん「人生の逆境」で、仏法に出遇っておられるように感じます。

ずいぶん前になります
が、「聞法(仏さまのお話を聞く)の機縁」についての、研修会レポートを読みました。

【司会者からの質問】

「貴方はなぜ、研修会に参加しようと思ったのですか？」

① さん 病気の夫を十二年間看病したからです。

② さん 多くの兄弟と死別し一人となったからです。

③ さん 六才の長男を交通事故で亡くす、つらい別れがありました。

④ さん 両眼を失明し、今、不安の中で暮らしています。

と、ご縁はそれぞれですが、皆さん、「人生の逆境」が仏法に出遇うご縁となっておられました。

「では」と、私自身を考えてみました。

一週間でさえ、付きっきりで他人様の看病をしたこともなく、

おかげさまで、両親、姉妹、子供たちは揃って元気です。

また(これは母に感謝するしかありませんが)、小さな頃から、健康だけが取り柄!という、いたって健康な身体で、順風満帆とは言えないまでも、レポートにある「逆境」とは程遠い人生を生きてきました。

■私が仏法に出遇うご縁って何だったのだろう???

私が小学生のころから、毎月法座が開かれるようになりました。

最初、三十分程のお勤め(読経)があり、少し休憩があったその後、四分ぐらい法話(説教)を聞くというものです。

この月例法座に、私たち三姉妹は、絶対出席でした。

正座で足は痺れるし、お説教は聞いても、ちんぷんかんぷん。

まるで宇宙語のようであまり理解できず、内心「ああ、嫌だ嫌だ。」と思いつつ座ってました。

しかし、親は、私たちがご法座に参るとすこぶる機嫌がよく、クラブ活動も休むことができます。苦痛の二時間ですが、点数稼ぎと、ズル休みのために辛抱していました。

ところが、年数が重なり、出席することが当たり前になってくると、親もその都度加点してくれるはずもなく、クラブの方も、仏さまごと(仏事)なら「仕方ないね」と、欠席届けに判を押してくれる顧問の先生も、毎月となると、露骨に嫌な顔をされます。

チームメイトからも、「アンちゃん、また、休むんだ」という空気を感じ、

クラブに居場所はなくなっていました。

月に一回のその日が来るのが嫌で嫌でたまりません。

ですから、「私がこんな嫌な思いをするのは、ご法座があるからや」

「うちの仏さんなんて、焼けてしまったらいいのに」と、恐ろしいことも考えました。

ところが、ご法座とともに、年を重ねるうちに、

「こんなに我慢して参っている私↓エライ」と思っていたことが、グラグラしてきました。

そして、お参りに来た人から、「若いのに偉いね」、「さすが、立派やね」と言われると、とても恥ずかしく感じるようになってきたのです。

「エライ」、「立派」とはおおよそ程遠い私だということ、仏法を聞くうち

にだんだん知らされてきました。

仏さまのお話を聞くと、仏さまのことがわかるのではありませんでした。

仏さまの智慧の光に照らし出された、私の本性がだんだんわかってきたのです。

私のように、仏法と出会うご縁は、「逆縁」ばかりではありません。

「逆縁」「順縁」は、私たちの側の分け隔てです。

すべての人を、さとの仏にする、とお誓い下さった仏さまのおはたらきは、常に絶えることなく私を仏さまへと育ててくださっています。

そのお育ての中、様々なご縁を通して、仏法とのご縁が開かれるのではないのでしょうか。

■昔、インドでオオカミに育てられた二人の人間の子どもがみつかりました。

二人はほら穴の中でオオカミと同じような生活をしていたよ

うです。

人間にみつきり、人間に取り戻されて、人間に育てなおされようとしたけれど、人間らしくなれないまま、死んでしまったという話です。

■畜生に育てられ畜生になる、人間に育てられ人間になる、「仏さまに育てられ仏と生まれてゆく」のです。

楽々亭に参加して

その6

安堂先生から「人は死ぬことを考えた時どんな事を一番考えますか？」との問いに皆さんそれぞれに考えました。先生は死のプロセスとして人が死を宣告されたとして次の様なプロセスを辿ると言われました。それは

- 1、否定
 - 2、怒り
 - 3、取引
 - 4、うつ
 - 5、受容・現実
- のプロセスを辿るそうです。

私は人が死を宣告された場合、この他に「悲しみ」「恐怖」「喜び」などがあると思います

す。

あなたは如何ですか？そんなこと考えた事ないと言う方もおられるでしょうね。しかし私達はいつか死の宣告を受けねばならない時が来るのではないのでしょうか。それは明日かも、5年先かも知れませんが、いつかは私達は死にます。生あるものは全ていつかは死にます。あなたはいつ死にますか？との問いは無意味かも知れませんが、死んだ後どうなるのか、何も無くなるのか、新しい世界に行くのか、誰もそれについて語っていません。

死んで生き返ってきた人が居ないので確かな事がわからないのですね。

なぜに生き永らえているのか酒さえも 答えてくれぬ秋の時雨か

心地良い騒がしさの喫茶店
一人微笑む 日曜の朝

人混みの中に入りて寂しさを 紛らわす我が身が 愛おしくもあり

老人になると寂しい事が多いのですが、私はその寂しさの中にどっぷり浸かっていると、時に心地よい時もあります。皆さんは寂しくないですか？強い人はそんな事は超越してしまふのかも、羨ましいです。私は毎月の楽々亭で癒されています。安堂先生の人間性の素晴らしさに触れていられるだけでも幸せですね。また、今月も色々考えてみます。生きているうちは。

籠谷 弘

楽々亭 11月の予定

11月22日(火)

西京区役所洛西支所会議室

午前10時～12時

10月に開催した場所です。

表玄関口から入って下さい。

楽々亭通信

発行元：NPO法人 没イチの会・京都

住所：京都市西京区大原野東境谷町一丁目1番地4-701

TEL：075-874-5320 FAX：075-874-5328

MAIL：kago@botuichi.com

●楽々亭通信では、皆様の投稿を募集しております。身の回りの出来事や体験談など、何でも結構です。楽しかったこと、つらい想いをしたことなど、様々な胸の内を皆様と共有して行きたいと考えております。